



布田 航
三郷ヶ (埼玉)→御所ヶ丘中→藤代紫水高 (ともに茨城)→法大。大学の競技を終え、2カ月間、開智国際大女子部の臨時コーチを務める

異彩を放て

開智国際大学の挑戦

21世紀型教育で注目される開智国際大学。開学と同時に創部されたハンドボール部(男女)も独自の取り組みで確かな結果を残している。ここでは臨時コーチの目から見た開智国際大学ハンドボール部の今をお届けしていく。

(取材/SEE企画)

「開智って大学もあるんだ」

首都圏有数の大学合格実績を誇る開智学園だが、大学を有していることは世間あまり知られておらず、大学の話をすると大抵このような反応が返ってくる。

この大学のハンドボール部は、関東学生リーグに所属し、2019年の創部以降、男子は38戦無敗で2部昇格を果たし、女子も9戦無敗で2部Aに昇格している。

この快進撃はどこまで続くのかと話題を集め、期待が高まっていた。

しかし、2部昇格以降、男子は2季連続で7位、女子は2位で1部との入れ替わりに挑むが、力の差を見せつけられ敗戦。当初の勢いはどこへやら、すっかり無難な場所に落ち着いたように見える。

強豪大学と比べ、開智の学生は小柄で技術も見劣りする。学生の主体性を重ん

じる雰囲気は他の大学にはない文化だが、昨今の結果を見る限り、それらはおとぎ話の夢物語にすぎなかった。

「結果よりも主体性を重視するならば、時にそれは逃避行動とも捉えられる。人生の夏休みとも評される大学生だ。たんなる主体性は無秩序と同等で、大学生活を彩るサークルとそう変わらない?」

と、練習ノートに記した私は、彼女らに体育会の厳しさをたたき込もうと昭和の鬼教官のように意気揚々と体育館に向かった。

入口にたたずむベージュ色の扉を開ける。ハンドボールコートが2面取れる大きな体育館。その奥で学生たちが大音量の洋楽に乗って身体を動かしている。つややかな床をきゅつ、きゅつ、と踏み鳴らす音が洋楽との不協和音を奏でる。

開始時間を間違えたかもしれない。とっさに左手首をひねる。9時30分。やはり練習開始までは余裕がある。不審者だと思われたのか、彼女らはいぶかしそうに目つきで私を見る。動きは止めなかった。「今年いっぱい臨時でコーチをします」

反応はとくになかった。少しくらいざわついてはしかなかった。一応、自分も大学生だし。

「結構厳しいから、コーチ」
監督が意地悪そうな表情を浮かべて言う。「えーっ、怖いんですけど」と口々に言う。伏し目がちに左右で異なる色の

靴紐が通されたシューズを見ながら反射的に構える。

がその必要はなかった。顔を上げると、好奇心に満ちた表情、瞳に宿る熱意が学生から伝わってきた。このチームはほかと違うかもしれない。疑念が確信に変わるまで、その時間はかからなかった。

集合が終わると、監督の指示を受けて選手たちがボールケースに群がる。

「もうボール練習をするんですか?」と疑問符を浮かべる私に「2時間しか練習しないからすぐにボールを持つよ」と監督はキツパリと答える。それなら練習前に身体を動かしていたのも合点がいく。

爆音で流れる洋楽のリズムに乗りながらきゅつ、きゅつと声をあげて、にぎやかな雰囲気アップゲームを行なう彼女らにはまるで当てはまらない気がした。

監督がどなることも学生になにかを強制することもなく、休日だけ集まる社会人チームに近い雰囲気すら感じる。

ホワイトボードには「2部リーグ優勝、入れ替え戦勝利」と丸みを帯びた字で書かれている。その下には春季リーグに向けた段階的なステップが設定され、「選手たちで考えたんだ」と練習前に監督が自慢げに話していたのを思い出す。

しかし、この雰囲気での目標とは1部リーグチームを甘く見過ぎだ。先ほど感じた違和感はまだの違和感でしかなかったのかもしれない。主体性を謳うだけの生ぬるい集団にすぎないのでは。やっ

ぱりこの程度か、そう思った時だった。

「シュート甘い!」「戻り遅い!」「パスもつと前にして!」「ナイツシュー!」「こ

こ緩めないよ!」

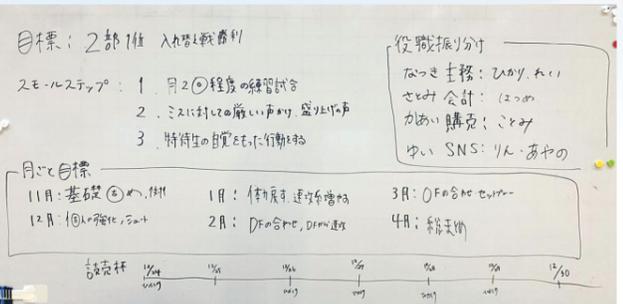
至る所から飛んでくる熱を帯びた言葉に思わず振り向く。プレーが終わるたびに選手同士で会話をしながら修正を試みる。

「さっきのパスのタイミングなんだけどさ」と選手たちが作戦盤を囲んで丸い磁石を前後左右に動かす。白いボードにあらゆる方向から手が重ねられ、盤上に濃度が異なる影ができる。指導者から指示を受けるための「指示盤」が、今や「作戦盤」としての意味をなしているように感じた。

休憩中にもその作戦会議は続く。そして、あつという間に練習終盤の紅白戦を迎えた。試合中もかけ声は止まらない。

「すぐ戻って!」「こー一本、大事に!」コートの中はさらなる熱気に満ちる。飛び交う声は強豪大学と大差ないが、声の響きはまるで違っていた。腹の底から出される声だからこそ言葉が熱を帯び、それらはコートに残り続ける。時折言葉がぶつかり合って火花を散らす。終了のブザーが耳元で響いて、初めて自分のめり込んでいたことに気づいた。

あいさつのあと、チームごとに円を描いて反省会を行なう。開智の学生は当たり前のように輪を作って話し合うが、とくに高校では指導者を囲んで集まるため視力検査のマークに似た形になる。他大



■所在地
〒277-0005 千葉県柏市柏 1225-6
URL: <https://www.kaichi.ac.jp/>

■最寄り駅
JR 常磐線・東武アーバンパークライン「柏」駅

■併設校
開智小学校・中学校・高等学校、開智未来中学校・高等学校、開智日本橋学園中学校・高等学校、開智望小学校・中等教育学校、開智所沢小学校・中等教育学校

■部員のおもな出身校
昭和学院、二松学舎大附柏、千葉明德、若松、土気、東京学館浦安(千葉)、浦和学院、浦和美、埼玉栄、川口東、久喜北陽(埼玉)、藤代紫水、水海道一、水海道二、土浦湖北、霞ヶ浦(茨城)、富岡実(群馬)、横浜創英、横浜創学館(神奈川)、明星、関東第一、昭和第一学園(東京)、高松商(香川)、総社(岡山)、高岡向陵、水見(富山)、郡山女大附、学法福島、郡山、尚志(福島)、聖和学園(宮城)、惺山(山形)、浦添工、コザ(沖縄)、函館工(北海道)ほか

■練習日時(原則週3日)
水・金 18:30~20:30 / 日 9:30~12:00

■強化クラブ特待制度の条件
高校3年間の評定平均3.8を基準に相談。高校顧問の推薦、総監督面接、特待生入試の試験結果により総合的に判断する

男子部 Instagram  女子部 Instagram  お問い合わせフォーム 

問い合わせ先 TEL: 04-7167-8655
開智国際大学事務局長 布田淳(ぬのた・じゅん)